

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

成果報告書

団 体 名	株式会社ジョイ・アート	
施 設 名	坊っちゃん劇場	
助成対象活動名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内定額（総額）	27,812	(千円)
公 演 事 業	14,154	(千円)
人 材 養 成 事 業	2,564	(千円)
普 及 啓 発 事 業	11,094	(千円)

(2) 平成30年度実施事業一覧

【公演事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミュージカル「よろこびのうた」	平成30年4月7日～ 平成30年12月16日	脚本/羽原大介、演出/錦織一清、 音楽監督・作曲/岸田敏志 他	目標値	41,850
		坊っちゃん劇場		実績値	21,016
2	ミュージカル「誓いのコイン」	平成31年1月1日～ 平成31年3月24日	脚本/高橋知伽江、演出/栗城宏、 作曲/深沢桂子、振付/尚すみれ 他	目標値	10,800
		坊っちゃん劇場		実績値	6,714
3	ミュージカル「しんみんさん」	平成30年10月13日	出演/村中弘和、斉藤芳、畠山泉	目標値	360
		坊っちゃん劇場		実績値	341
4	ミュージカル「愛媛の偉人伝」	平成30年12月23日	出演/近藤誠二、山田愛子、村中弘和	目標値	360
		坊っちゃん劇場		実績値	336
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	53,370
				実績値	28,407

(2) 平成30年度実施事業一覧

【人材養成事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	ミュージカル俳優養成講座	平成30年4月8日～ 平成31年3月24日	講師/大杉良、近藤誠二 舞台スタッフ/二神江里子	目標値	750
		坊っちゃん劇場 愛媛県生涯学習センター		実績値	734
2	愛媛県西予市市民劇団俳優養成ワークショップ	平成30年10月20日～ 平成31年1月6日	講師/畠山泉、松岡恵	目標値	30
		西予市宇和文化会館		実績値	106
3	愛媛県大学演劇部演劇合宿	平成30年4月30日～ 平成30年10月7日	講師/近藤誠二、中村茂昭、畠山泉、坂井仁 他	目標値	40
		坊っちゃん劇場 松山大学		実績値	28
4	愛媛県西条市 市民演劇文化醸成事業「坊っちゃん劇場アカデミー」	平成30年6月30日～ 平成30年10月14日	講師/大杉良、山本太郎、松岡修平、近藤誠二 他	目標値	60
		坊っちゃん劇場 西条市総合文化会館		実績値	38
5	愛媛県宇和島市 舞台技術スタッフ研修講座	平成30年7月14日～ 平成30年12月8日	講師/土屋茂昭	目標値	5
		坊っちゃん劇場		実績値	32
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	885
				実績値	938

(2) 平成30年度実施事業一覧

【普及啓発事業】					
番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	小中高演劇鑑賞事業	平成30年4月1日～ 平成31年3月31日	脚本/羽原大介、演出/錦織一清、 音楽監督・作曲/岸田敏志 他	目標値	20,000
		坊っちゃん劇場		実績値	12,014
2	キャリア教育・人権教育 劇巡回公演事業	平成30年4月5日～ 平成31年3月20日	出演/近藤誠二、斉藤芳、村中弘 和、畠山泉	目標値	3,600
		小中学校・公民館他		実績値	6,763
3	愛媛県高校演劇部夏期講 習	平成30年8月2日	講師/斉藤芳、平野淳、松岡修平、 河野慶	目標値	200
		坊っちゃん劇場		実績値	131
4	愛媛県教職員表現力を高 めるワークショップ	平成30年7月31日	講師/中村茂昭、平野淳、松岡修 平、河野慶	目標値	100
		坊っちゃん劇場		実績値	65
5	東温市小中学校演劇活性 化事業	平成30年4月24日～ 平成31年3月6日	講師/村中弘和、畠山泉、近藤誠 二、中村茂昭、平野淳 他	目標値	500
		東温市内小中学校		実績値	463
6	君も役者だ 役者なりき り体験	平成30年8月18日～ 平成30年12月9日	講師/脇山尚美、渡辺輝世美 他 スタッフ/松岡修平、河野慶	目標値	300
		坊っちゃん劇場		実績値	84
7	学校法人河原学園演劇 ワークショップ	平成30年6月8日～ 平成31年3月18日	講師/脇山尚美、渡辺輝世美 他 スタッフ/松岡修平、河野慶	目標値	1,600
		坊っちゃん劇場		実績値	889
8	愛媛県シニア演劇ワーク ショップ	平成30年4月6日～ 平成31年3月28日	講師/近藤誠二、斉藤芳、中村茂 昭、山田愛子 他	目標値	100
		坊っちゃん劇場		実績値	26
9	愛媛県立宇和特別支援学 校演劇ワークショップ	平成30年4月19日～ 平成30年12月14日	講師/近藤誠二、斉藤芳、中村茂 昭、山田愛子 他	目標値	150
		愛媛県立宇和特別支援学 校		実績値	85
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
				目標値	
				実績値	
平成30年度の目標値、実績値				目標値	26,550
				実績値	20,520

【妥当性】

自己評価

社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

坊っちゃん劇場のミッションは、愛媛県をはじめとする中四国の文化芸術水準の向上と、感動体験による教育・観光・福祉等、地域の人々の生活の中における問題・課題解決のための取り組みをすることによって、地域活性化を目指すことである。

ミュージカル「よろこびのうた」は、本格的な舞台芸術に触れる機会の少ない四国において、一流の舞台スタッフ、出演者による上質な舞台芸術を提供する事業である。「第九」公演100周年を記念し、制作した本作品の上演は、現在徳島県の子どもたちにとっても、第一次世界大戦中にドイツ兵捕虜を収容した「坂東収容所」が県内に存在したという認識が薄れているなか、改めて生まれた土地の歴史を知る機会となり、また徳島県外の方にとっても、日本とドイツの交流が現在の文化・経済に与えた影響を知るきっかけとなった。

ミュージカル「別子銅山物語」（仮題）については、ロシア・オレンブルク州政府より愛媛県に対し、ロシアの国際演劇祭である“Gostiniy Dvor”に坊っちゃん劇場の作品を出展するよう要請があったため、日露戦争時に日本人とロシア兵捕虜との心の交流を描いた作品「誓いのコイン」を上演した。（資料No.1-2）

人材養成事業は、当初の予定通り、西条市、西予市、宇和島市で実演芸術家や舞台スタッフを育成するワークショップを展開した。地元で役者や舞台スタッフとしての活躍の場を広げることが出来れば、優秀な人材が県外に流出することを防ぐことができ、ひいては県内の舞台芸術の品質向上、観劇者の拡大に繋がる事を念頭に置き、各事業を遂行した。

普及啓発事業においても、当初の計画通り、子どもたちの情操教育とふるさと教育を行うことにより、観劇人口の拡大を目指す「小中高演劇鑑賞事業」、年齢や障害の有無、居住地域に関わらず、広く舞台芸術を鑑賞、体験するための「キャリア教育・人権教育劇巡回公演事業」、「愛媛県立宇和特別支援学校演劇ワークショップ」、高齢者の生きがい作りと新たなコミュニティの創造を目的とした「愛媛県シニア演劇ワークショップ」などを実施した。特に「愛媛県立宇和特別支援学校演劇ワークショップ」は現場の教育関係者から「演劇の力で子どもたちが日に日に成長した」との感想も頂き、その社会的意義も感じている。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

助成を受ける事により舞台の品質が向上し、上質な舞台を体験することで、地域の子どもの情操教育、健全育成、地域文化の発展に繋がる。坊っちゃん劇場のある東温市は少子高齢化が問題となっており、中山間地域では若者不足の問題が顕著にあらわれている。坊っちゃん劇場はミュージカルの上演に加え、東温市と協働で市民参加型ミュージカルを制作・上演したり、地域の学校に出向き、舞台芸術活動を活性化することにより、他の地域には無い魅力を向上させている。平成28年度より東温市と協働で行っている「とうおんアートヴィレッジ構想」では、舞台芸術の新たな産業の雇用の創出し、市外からの移住・定住者の獲得を図っている。本構想により実演芸術者・舞台スタッフなどが現在までに14名移住している。東温市の人口動態（社会動態）においても、平成29年は169人増、平成30年は221人増となっており、魅力的な街づくりに貢献することにより、徐々に人口が増加している。（資料No.3-5）

地域の伝統、文化、偉人をモチーフとした作品を、首都圏で活躍する脚本家、演出家、実演芸術家を登用し制作、上演することにより、社会的評価が高まり、地元の企業とコラボレーションした商品を開発、販売する動きが生まれている。本年度は四国シキシマパンがドイツ人捕虜と日本人との交流を描いたミュージカル「よろこびのうた」上演をきっかけに同作品とコラボレートした新商品を開発、四国全域で販売した。地域に密着した劇場として、地域経済との連携を図っている。（資料No.6-7）

首都圏で活躍する実演芸術家が坊っちゃん劇場に長期間出演することにより、愛媛や東温市の魅力を知り、その魅力を語れるようになる。このことに注目した愛媛県や東温市が、役者としての出演が終了し首都圏に帰ったとしても、愛媛県や東温市の魅力を発信できることに期待を持ち、平成25年より坊っちゃん劇場の役者・スタッフを観光大使に任命している。現在までに52人の出演者が東温市観光大使となっており、首都圏のアンテナショップでのイベントに出演するなど、愛媛県、東温市の情報発信に貢献している。（資料No.8-9）

坊っちゃん劇場は県外からの観光客も多数観劇に来ることから、近隣の観光施設、飲食店にも経済効果をもたらしている。坊っちゃん劇場に隣接している「クールス・モール」は平成29年度の来館者数が716,316人、平成30年度が769,336人と107.4%増加しており、東温市の交流人口の拡大、経済の振興に寄与している。

【有効性】

自己評価

目標を達成したか。

公演事業はミュージカル「よろこびのうた」、ミュージカル「誓いのコイン」、ミュージカル「しんみんさん」、ミュージカル「愛媛の偉人伝」の4作品を制作、上演した。

坊っちゃん劇場の核となる公演である、ミュージカル「よろこびのうた」、ミュージカル「誓いのコイン」においては、目標来場者数がそれぞれ41,850人、10,800人に対して、実績が21,016人、6,714人となり、達成率は50.2%、62.2%で大きく減少した。これは同年7月に起きた西日本豪雨災害が大きく影響している。特に愛媛県南予地方からの団体観劇のキャンセルが相次ぎ、その他の災害の影響のない地域にも団体観劇に対する自粛ムードが広がった。次年度もこの影響は少なからず残る見込みで、目標値を立て直す必要がある。

ミュージカル「しんみんさん」、ミュージカル「愛媛の偉人伝」に関しては、目標来場者数それぞれ360人に対して、341人、336人とほぼ目標を達成することができた。ミュージカル「愛媛の偉人伝」は坊っちゃん劇場での公演を目的として制作・上演されたが、一般来場者はもとより、教育関係者からの評価が高く、次年度以降、学校巡回公演を計画する運びとなった。

人材養成事業は、協働で行う自治体・施設の目標を5カ所に設定した。これに関しては目標通り松山市、西予市、西条市、宇和島市、松山大学と連携して事業を行うことができた。

参加人数に関しては、

ミュージカル俳優養成講座は目標のべ750人に対し、のべ734人

愛媛県西予市市民劇団俳優養成ワークショップは目標のべ30人に対し、のべ106人

愛媛県大学演劇部演劇合宿は目標40人に対し、28人

愛媛県西条市「坊っちゃん劇場アカデミー」は目標60人に対し、38人

宇和島市舞台技術スタッフ研修講座は目標30人に対し、32人

事業合計で目標910人に対し、938人の参加があった。事業ごとのばらつきはあるが、概ね参加者目標を達成した。今後継続する事業に対しては、目標に満たなかったものは利用者のニーズや告知方法などを再調査、内容を改善し、参加者増を図りたい。

普及啓発事業に関しては、9事業行った中で、「キャリア教育・人権教育劇巡回公演事業」が目標値3,600人に対して、実質値6,763人と、目標を大きく上回った。これは、2013年より教育現場のニーズを取り入れたキャリア教育劇の制作・上演を続けてきたことが、県内の教育関係者から高く評価されてきた結果である。今後も関係者のニーズを的確に反映した教育劇を制作し、県内に広く展開して行く。反面、「小中高演劇鑑賞事業」、「愛媛県シニア演劇ワークショップ」が大きく減少する結果となった。「小中高演劇鑑賞事業」は目標値20,000人に対して12,014人、愛媛県シニア演劇ワークショップは目標値100人に対して26人であった。こちらも西日本豪雨災害が大きく影響しており、即座に練れる対策は見いだせないが、何れも子どもたちの情操教育やふるさと教育、高齢者の生きがい作りや新たなコミュニティーの創造に向けた取り組みであるので、地道に継続して行きたい。

(各実績は平成30年度申請書、実績報告書の数値を参照)

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業に関しては、ミュージカル「よろこびのうた」、ミュージカル「しんみんさん」、ミュージカル「愛媛の偉人伝」は、公演回数、公演日に多少の前後があったものの、概ね当初の予定通り実施できた。ただ、ミュージカル「別子銅山物語」(仮題)は、ロシア・オレンブルク州政府から国際演劇祭出展の依頼があり、日露戦争時の松山市民とロシア兵捕虜との心の交流を描いた、ミュージカル「誓いのコイン」に題材を変更した。事業費に関しては、総額74,896,104円(予算75,923,000円)に対し、入場料等の収入が50,977,480円(予算54,300,000円)と経費削減は出来たものの、7月の西日本豪雨災害により収入が予定より大きく下回った。

人材養成事業に関しては、実施期間、回数、事業費ともに当初の計画通り実施できた。特に、愛媛県大学演劇部夏期講習は、大学演劇部の公演に沿って企画、運営、上演の指導ができたことにより、通常の来場者数が80人程度であったものに対し、本年度は来場者が200人に達した。また、西予市市民劇団俳優養成ワークショップは、参加者数の見込みをのべ30人としていたが、期間中のべ106人の参加があり、西予市の実演芸術家に対する興味の喚起、スキルアップ向上に貢献できた。

普及啓発事業に関しても、実施期間、回数、事業費ともに当初の計画通り実施することができた。特に「キャリア教育・人権教育劇巡回公演事業」においては、親しみの持てる地域の題材を複数制作し、各団体のニーズに合わせて選択、上演出来たことにより、大幅に予想を上回る結果となった。

(各実績は平成30年度申請書、実績報告書の数値を参照)

【創造性】

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

人材養成事業で行った、「愛媛県西予市市民劇団俳優養成ワークショップ」、「愛媛県西条市市民演劇文化醸成事業坊っちゃん劇場アカデミー」、「愛媛県宇和島市舞台技術スタッフ研修講座」、普及啓発事業で行った「特別支援学校演劇ワークショップ」など、これまで行ってきた、県内各市町村、文化施設との共同事業の連携の中で、愛媛県民総合文化祭の30周年記念となる本年度のメイン事業として、坊っちゃん劇場の制作したミュージカルが上演された。本公演は、愛媛県内の3人の偉人を顕彰したミュージカルで、これまで行った各市町村でのワークショップ参加者などが出演者としてオーディションで選ばれ、質の高い作品が届けられたことにより、主催者や来場者から高い評価を頂いた。これまで坊っちゃん劇場が培ってきた各市町村や文化施設とのネットワークによって生まれた成果である。（資料No.10）

本年度制作・上演したミュージカル「よろこびのうた」が、主に30代から40代のインターネットユーザーをコアターゲットとした情報を各方面の専門家が発信する日本最大級の総合情報サイトである「All About」において、2018年ミュージカル・アワード・ファミリーミュージカル賞に選ばれた。東京などの都市部で上演されたミュージカル作品が受賞の大半を占める中、地方としては坊っちゃん劇場の作品が唯一選出されており、品質においても国内トップクラスであることが認められた。また、ファミリーミュージカル賞を受賞したことは、大人だけでなく、子どもたちにも有益な作品であることが認められ、坊っちゃん劇場の掲げる次代を担う子どもたちの情操教育、ふるさと教育の醸成という方向性が裏付けられた。（資料No.11）

「ミュージカル養成講座」で学び、東温市民ミュージカル「城ノブ～愛媛のマザーテレサ」で活躍した、愛媛県在住の山崎玲奈が子役の登竜門であるミュージカル「アニー」のオーディションで約5,000人の中から主演の「アニー」に選出された。

【創造性】

自己評価

地域の実演芸術の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

公演事業、ミュージカル「よろこびのうた」では、子どもたちが舞台を観劇することにより、豊かな感性と表現力を育むことができるとの評価を受け、公演期間中にミュージカルを見て俳句を作る「俳句を詠もう2018」が開催され、県内の小中学生とその家族400人が参加した。ミュージカル観劇後に舞台のイメージや感動した気持ちなどを俳句にし、選者の夏井いつき氏が優秀作品を選出。講評やアドバイスをを行い、舞台芸術と愛媛を代表する文学が同時に体験できる企画となり参加者から高い評価を頂いた。（資料No.12）

また、昨年、地域の奉仕団体が企画・実施した松山盲学校ミュージカル体験が、本年度も継続実施され、生徒の大多数が初めてのミュージカルを体験した。「最初はミュージカルに関して不安を抱いていたが、体験後には芝居や歌のシーンを身体で感じとり、ミュージカルの楽しさを体感できた」等の感想を頂いた。また、終演後は役者・スタッフとの交流会を行い、役者への質問などが積極的に行われ、深い洞察により作品のテーマについても語り合った。（資料No.13）

同じく「第九」アジア初演100周年を記念して制作されたミュージカル「よろこびのうた」は、県内外のコーラスグループと連携し、終演後に舞台上で出演者と「第九」を歌うイベントも頻繁に行われた、これにより県内はもとより、徳島、関西、関東圏のコーラスグループ、第九関係者との関係性が深まり、舞台観劇者の拡大に繋がった。

普及啓発事業の「愛媛県シニア演劇ワークショップ」では、高齢者の生きがい作りや新たなコミュニティの創出のため、定期的な演劇ワークショップを行っている。本年は、伊予郡松前町の偉人、義農作兵衛を顕彰する舞台を題材にワークショップを進めた。このことがきっかけで、同町の作兵衛をしのぶ「義農祭」にゲスト参加することとなった。出演者は日頃の成果を披露し、関係者、参加者から高い評価を頂いた。（資料No.14）

坊っちゃん劇場で行われたワークショップや市民ミュージカルをきっかけに、市民の中で新たな劇団が生まれている。坊っちゃん劇場のある東温市では、東温市民ミュージカルの公演後に出演者がミュージカル俳優養成講座やシニア演劇ワークショップでスキルを磨き、「東温市民劇団」を設立した。現在15名の団員が定期的に東温市内で公演を行っている。（資料No.15）

人材養成事業、ミュージカル俳優養成講座を松山市の愛媛県生涯学習センターで開催していることがきっかけで、愛媛の伝統芸能継承を図る事業が行われた。坊っちゃん劇場の役者とミュージカル俳優養成講座の参加者のほか、同センターの主催する講座参加者などで、松山市に江戸時代中期から伝わる伝統芸能「伊予万歳」を披露した。今後も積極的に愛媛の伝統芸能の継承事業を展開して行きたい。（資料No.16）

助成事業ではないが、坊っちゃん劇場では演劇の8K映像化による舞台芸術の普及や伝統芸能のアーカイブス化に取り組んでいる。海外のブロードウェイやウエストエンド、国内都心部では演劇が盛んに行われており観賞の機会も多いが、地方ではその機会は極端に少なく、観劇人口や実演芸術家もそれに比例している。しかし、臨場感のある8K映像により海外や都市部で行っている舞台を撮影し地方で上映することにより、舞台芸術に触れる機会の無かった方々にも気軽に舞台芸術体験することができる。この取り組みが評価され、2018年週刊愛媛経済レポート賞準大賞に選ばれた。平成29年度はロシア作品「理性の睡眠」（主演/セルゲイ・ベズルコフ）、東京作品ミュージカル「ポストマン」（主演/海宝直人）、愛媛作品ミュージカル「52days」、「よろこびのうた」を撮影、坊っちゃん劇場とTOHOシネマズ六本木ヒルズでプレミア上映会を実施。（資料No.17）平成30年度は先の4作品に加え、韓国作品「笑う男」、「カラマーゾフの兄弟」、台湾作品「余太君掛帥」を撮影、坊っちゃん劇場にて世界初となる「アジア8K映像演劇祭」が開催され、来場者並びに来日した各作品の創造スタッフから本物の舞台の臨場感が味わえるとの評価を頂いた。初めて観た方からも海外作品に対して大きな関心が寄せられた。（資料No.18）

【持続性】

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

公演事業では、事業の公共性や質の高い舞台芸術を提供していることを地元企業から高く評価され、愛媛新聞社や伊予銀行、明治乳業などが企業のCSRとして坊っちゃん劇場の貸切公演を行っている。また、愛媛トヨタや三浦工業などは、社員の観劇に加え、出演者や劇場スタッフなどによる演劇スキルを活用したコミュニケーション能力向上ワークショップも行っている。このように地元企業、行政が抱える課題や問題解決の手段として舞台芸術が活用され始めている。

前年度、公演事業で実施した東温市民ミュージカル「城ノブ」～愛媛のマザーテレサ～に出演した愛媛県在住の山崎玲奈がミュージカル「アニー」(2019年4月27～5月13日、東京・新国立劇場)の第34代のアニー役に選出された。このことが地元でも大きく報じられ、東温市や近隣地域において実演芸術家や舞台スタッフを目指すという新たな夢の造成に繋がっている。(資料No.19)

人材養成事業では、愛媛県生涯学習センター、西予市宇和文化会館、西条市文化会館、松山大学カルフルホール等、他の文化施設と共同で実演芸術家や舞台スタッフを育成するワークショップを行ったり、円滑な劇団運営や上演ができるノウハウを提供する講座を開き、他の文化施設との連携を深めつつ、実演芸術家の育成に努めている。

普及啓発事業では、年齢や障害の有無に関わらず、広く舞台芸術を鑑賞、体験できる事業を中心に展開している。平成27年、28年は「みなら特別支援学校」でのワークショップ、平成29年は「新居浜特別支援学校」、30年は「宇和特別支援学校」と、愛媛県内7校ある特別支援学校の内、3校での演劇ワークショップが行われた。31年度は「今治特別支援学校」でのワークショップが決定しており、今後も展開して行く予定である。本事業は、障害を持った子どもたちが舞台を観劇するだけでなく、プロの役者や舞台スタッフと一緒に舞台を作り、生徒たちが役者や舞台スタッフを体験する取り組みを行っている。これにより、表現の苦手な子どもたちが自主的に周囲と関わるようになり、協力し合うことが出来るようになるなどの効果が表れている。(資料No.20-21)

平成29年度に公演事業で制作、上演したミュージカル「二宮忠八物語」はアウトリーチ事業として、県内各地で上演された。この作品が、平成30年の八幡浜市民ミュージカル発足に繋がり、同市で市民によるミュージカル「二宮忠八」を上演。地域の文化発信の重要性と舞台芸術の関心が高まり、平成31年度は新たな作品を創作・上演する。

平成29年度、坊っちゃん劇場と砥部町が協働で行った砥部町民ミュージカル「シンパシーライジング～砥部焼物語」を原作とした同名の作品の映画化に向けた実行委員会が発足し、平成31年に撮影が予定されている。同町の地域文化発信に対する関心が高まることにより、更なる活性化や観光振興が期待される。(資料No.22)